

第5回 阪神新地域ビジョン検討委員会 議事録概要

- 1 日 時：令和3年9月3日（金） 10時～12時
- 2 場 所：宝塚市立西公民館（宝塚市小林2-7-30）2階（地上階）ホール
- 3 出席者
委 員：赤澤委員長、佐久間副委員長、大平委員、川中委員、
近藤委員、定藤委員、谷口委員、水野委員、山中委員
行政委員：西川委員、二口委員、平井委員
- 4 内 容候補
 - （1）今後のスケジュールについて
 - （2）阪神新地域ビジョンの実現に向けたシナリオ及び構成についての意見交換
（グループディスカッション）

【委員長】

本日は前回に引き続き2回目のグループディスカッションとなる。詳細な意見を出し議論をしていただきたいので、よろしく願います。まず事務局から阪神新地域ビジョン検討委員会の資料説明とスケジュールについて説明いただく。

【事務局】

新地域ビジョンの策定に関する今後のスケジュールについて、資料1に基づき説明する。

今年度は検討委員会を6月から2ヶ月に1回の開催を目途に4回、昨年度からあわせて7回開催する予定。本日開催する第5回は日程調整の結果、9月開催となったが、第6回、第7回の開催予定については、従来どおり変更はない。

本日の第5回では、新ビジョンの実現に向けたシナリオについてグループディスカッションにより意見交換を行い、次回10月下旬頃に予定している第6回では、本日の内容を踏まえて作成する本体案について検討いただく。今回はシナリオの事前照会をしたが、第6回は従来どおり、1週間前を目途に資料を送付させていただき、当日、ご検討いただく。

「地域ビジョン委員会総会」について、10月に阪神南北で合同の研修会の開催を予定している。「未来フォーラム」について、11月に阪神南北で合同開催を予定している。これらのほかビジョンを語る会でいただいた意見なども最終案に盛り込み、12月頃開催予定の第7回検討委員会で検討した後に、パブリックコメントを実施し、1月の策定を予定している。

【委員長】

次の議事、阪神新地域ビジョンの実現に向けたシナリオと構成についての意見交換に移る。事前意見照会でいただいた意見では、個別のシナリオに関する意見のほか、シナリオ構成などについても意見をいただいた。全体に関わる事項については、グループディスカッション

に先立ち、この場で審議いただく。

【事務局】

阪神新地域ビジョンの実現に向けたシナリオ構成について説明する。(資料2-1)
本日の検討委員会に先立って、第4回までにいただいた意見を踏まえ事務局でシナリオ案を作成したうえで、各委員あて事前に意見照会を行い、いただいた意見を分類して資料2-1にまとめた。その意見を一部反映したものを資料5として配付している。資料5は本体案にそのままつけるものの現時点での案となる。

資料2-1の1から説明する。1ではシナリオの大きな構造に対する意見を記載している。

(1)は、シナリオタイトルのすぐ下、課題や将来への取組の上の四角囲みの部分に関する意見。この部分は、現状やこの地域の特徴や将来への展望などを記載している。事務局としては、不要な記載はなるべく省き、レイアウトなどで視覚的に見せるなどの工夫で補えると判断し省いたが、タイトルをつけた方が良いと意見をいただいた。

(2)は、シナリオの一番左の列のタイトルに関する意見。ご指摘をふまえ、タイトルを「課題」に修正した。

(3)は3段階目のタイトルの名前の修正についての意見。また、(4)は、4段階の構成の変更についての意見。

(資料2-2)第4回まで検討いただいた構成は5段階であった。2050年をいきなりイメージするのは難しいだろうということで、2030年頃の間像を設定し、現在から中間像への取組、中間像から将来像に向けての取組を記載する「将来に向けて」という5段階の項目とし、各項目を時系列に並べていた。意見照会の時点で事務局が4段階にした経緯についてだが、今回、各シナリオの作成を進めたところ、2050年の将来像から逆算して2030年頃の間像を設定し、現在から中間像、中間像から将来像までの間の取組をそれぞれに落とし込むということが難しかった。変化の大きい時代であるのに中間像というようなしっかりしたイメージを設定することが妥当なのか、また、中間像が変化すれば、中間像から将来像に至るまでの取組も色々なルートがあるだろうと思われたため、赤澤委員長と協議したうえで、「将来へ向けて」を削除し、現時点での「課題」、現在から2030年頃までに行う取組を記載する「将来への取組」、「中間像」ほど明確ではないが、それに変わるものとして、その取組をした結果2030年頃に生まれるであろう変化を記載する「見えてきた兆し」、そして2050年の「めざしたい姿」の4段階の構成としたところである。

ただ、「見えてきた」という文言が少なくとも現在を起点とするような文言で、修正案として適当ではなかったため、(3)や(4)の意見をいただいた。(資料真ん中のA)これは(4)の意見のとおり修正した場合を書式にしたものだが、提案の趣旨と異なっているようであればご容赦いただきたい。2050年の「めざしたい姿」があって、そうするためにはどのような取組が必要かを記載するという構成を提案いただいている。ただ、「見えてきた兆し」は現在のことを記載しているという前提によっているが、実際には2030年頃のことを記載している。この案を採用すると、「見えてきた兆し」の記載内容を現在のものを記載するように変更するのか、もしくは、2030年頃のことを記載したままとするのであれば、

それぞれの列の関係性がわかりにくくなるのではないかと考える。

そこで、事務局としては、(3)の意見のとおり、現在の構成のまま「見えてきた兆し」というタイトルを修正するほうがよいと考え、タイトルの検討を行った。資料下部の事務局案に記載のとおり赤色四角囲みのような観点で、事務局としては「うまれる変化」というタイトルに修正したい。

(資料2-1 2頁)「2 シナリオの構成について」では構成の少し細かい部分への意見を記載している。

(1)は、「みんなの声」で意味の分からない意見があるという意見。例示いただいた意見は削除したが、指摘を踏まえ、その他の意見についても、表現の修正ができるものは修正し、または差し替えるなど、事務局で精査する。

(2)は、「みんなの声」をどんな人の発言が分かるようにした方がよいという意見。各コメントについては性別や年代などの表記は不要と考えている。どういった人の意見か特定はしなくてもよいと思われた意見を「みんなの声」としてまとめていたが、ご指摘をふまえて見直し、特定が必要と思われた意見について修正した。

(3)の意見については、ご指摘をふまえ、表現を修正した。

(4)は、主語が異なるにも関わらず省略しているため誤解が生じるという意見で、ご指摘をふまえ、シナリオの全体の末尾の資料5の19頁に「特に断りのない場合は、行動主体は阪神地域住民とする」という注釈を入れるとともに、主語を追加した。また、引き続き、住民が主語でないものについて主語が省略されたままの記載が残っていないか、事務局で精査する。

(5)の意見について、事務局にて文章の形式を修正する。

(6)の意見について、子ども目線の記載がふさわしいものは修正し、追加が必要なものがないか精査する。

(7)の意見について、事務局としても、県民自身の取組などはできるだけ盛り込みたいと考えているので、そのシナリオならではの取組などを記載する。

(資料3)第4回検討委員会の時点でシナリオは24タイトルあったが、前回の検討委員会での議論も踏まえ、シナリオを統合するなどの見直しを行い、18タイトルに整理した。

資料では、意見照会を行った際のタイトルを左の列に記載し、意見をふまえ、名称を変更するとともに、柱立て2については、柱立てのタイトル名の自然、歴史、文化、人を育てる順番に入れ替え、修正したものを右の列に記載している。なお、資料5では、この右の列の構成にて修正した後のものを配布している。

シナリオの移動や統合分離に関する意見については、資料2-1から抜粋したものを資料下部に記載しているので、それぞれのご意見に関して事務局がどのような観点で整理したのか説明する。大項目の一つ目は柱立てを移動してはどうかという意見。シナリオ4、6、9、13及び18について柱立てを移動してはどうかと提案意見があった。様々な要素が複合的に絡み合ったシナリオも多く、どの柱立てに整理するのか事務局で検討した際も悩ましいシナリオがいくつかもあった。該当する柱立てに再掲という形で記載するパターンも検討したが、再掲がかなり多くなるため、一箇所に絞って掲載することとし、また、どの柱立てに入

れるのが最も適切か、バランスなども勘案しながら今のような構成で整理しており、事務局としては今示している形で良いのではないかと考えている。

大項目の二つ目は統合・分離に関する意見で、その一つ目はシナリオ3と4を統合してはどうかという意見。事務局としては、シナリオ3はまちにおけるシニアや女性のありようを記載しており、一方、シナリオ4は高齢者個々人の健康に関するシナリオなので、内容は異なると考えている。二つ目の意見は自動運転の普及についてだが、一義的には脱炭素に向けた取組であることから、「地域で循環するエネルギー」のシナリオに記載している。ただ、道路の整備状況や交通状況など有利性の理由からだと思うが、ニュータウンで自動運転の実証実験が行われているような事例も現時点であるため、意見を踏まえ、シナリオ10にも記載を追記した。

三つ目の意見は里山と阪神なぎさ回廊のシナリオを統合してはどうかという意見。いずれも自然に関するシナリオだが、里山については担い手や保全が論点として比重が高く、阪神なぎさ回廊については利活用が論点となっており、それぞれ課題や展望が異なっている。一つ飛ばして一番下の意見は、阪神なぎさ回廊をツーリズムに統合してはという意見だが、この地域の海辺は、明治から昭和初期のころは東洋のニースと例えられるような海岸リゾート地であったという歴史がある。阪神地域における自然として、山や緑はもちろん、そういう意味もあって海辺の自然も重要であり、事務局としては柱立て2の一つの項目としたい。

また、現在の阪神なぎさ回廊は、親水空間などとして近隣の方が訪れる憩いの場という側面が強く、ツーリズムに組み込むにはやや性質が異なるのではないかと。一つ上に戻って、下から二つ目は、「阪神間モダニズム」の分離についての意見で、「阪神間モダニズム」は阪神南ではリーディングプロジェクトとして取り組んでいるものでもあるが、明治以降の歴史に根ざしたこの地域ならではの文化が「阪神間モダニズム」なので、この地域ならではのシナリオであると事務局としては考えており、現状のままとしたい。

資料3について、以上のとおりだが、いただいた意見ももっともな意見だと思うが、完全な正解もなく、ある程度のところでこうだと決めるしかないので、できれば事務局案のとおりとしたいと考えている。

【委員長】

資料2-2について大きな変更の可能性がある意見があった。その意見についてはこの場で確認をしてからグループディスカッションに移る。

前回の検討委員会では、「中間」、「2030年まで」、「2030年」、「2050年まで」、「2050年」という段階に分けて記載してはどうかと進めてきたが難しいということで「課題」、「見えてきた兆し」、「めざしたい姿」という流れにし、それを実現する方法を書くことになっていた。前回のグループディスカッションでもこの流れで進めてきたためこの流れは変えないが、誤解を生じるような「見えてきた兆し」のタイトルは「今見えてきた兆し」というように見えるため、「2030年頃に見えてくる兆し」という意味になるような「うまれる変化」に変更する。そもそも記載する内容が長期的なものなので、中間像を設定しにくいシナリオもあるかもしれないが、「うまれる変化」、「将来への取組」の内容が薄くなる場合もあるが、濃淡で調整

できると考えている。

【委員】

シナリオイメージのデザイン的な問題ではあるが、4段階が並列で書いているとどこに向かっているのかが分かりにくい。どこがメイン（「めざしたい姿」）か、ゴールになるのかが視覚的にわかるように記載してはどうか。

【委員長】

2050年の「めざしたい姿」が達成される方法は多くあり、2050年が近づいていくごとに達成される方法や内容は変わってくるだろう。そのプロセスとして真ん中を並列にして書いているが、矢印が繋がっていてそれさえ達成されれば将来像へ繋がるような矢印感を出す方法もある。「めざしたい姿」が強調されるように記載することについて再考していきたい。

【委員】

中間像としての「うまれる変化」を書きたいということであれば、そのように書いてしまった方が分かりやすいのではないか。「うまれる変化」と「めざしたい姿」の違いも説明してもらって初めて正しい解釈ができる。シナリオイメージの資料には注釈等で記載されていることもないため、何が違うのかが分かりにくい。「2030年の中間像」、「2050年のめざしたい姿」と記載した方がより多くの人に理解されやすく、県民の方への共有という観点からも明確な記載にしてはどうか。

【委員長】

それらしい表題をつけると誤解を招いたり、深読みをして本来の意味から離れる可能性もあるためシンプルな表題を再考する。本日事務局からの提案（シナリオ4段階の構成）は理解いただけるということでよろしいか。

次に資料3についてグループディスカッションで議論いただくが、シナリオの柱立て移動や統合、分離について事務局で一部反映し、資料2-1に記載している。グループディスカッションで資料を確認しながら議論いただきたい。

次に本体案策定に向けての意見交換について事務局から説明をお願いします。

【委員】

前回の検討委員会で「コ・クリエーション」を盛り込んでいくかという話があったかと思うが、2050年の「めざしたい姿」にコ・クリエーションが登場するような形で議論をすればよいか。

【委員長】

それについてはシナリオのテーマごとに異なるのでグループディスカッションごとにお任せしたい。事務局からの説明の後に改めてこの場で確認する。

【事務局】

阪神新地域ビジョンの実現に向けたシナリオについての意見交換の説明をさせていただきます。

本日のグループディスカッションでは、先ほどの説明でも申し上げたとおり、事前に行った意見照会でいただいた意見をふまえて修正したシナリオを資料5として配付しているので、各班に割り当てているシナリオを中心に審議いただく。

資料4が本日グループディスカッションで検討いただきたい論点となる。(1)地域の住民が共感を持てる内容となっているか、(2)阪神らしさを感じるシナリオとなっているか、それと、(3)事前照会でいただいた意見について既に反映させているものもあるが、反映させるのか、どのように反映させるのか、この3点である。また、新たな意見もあれば議論いただければと思う。

グループディスカッションに使用する資料は2に記載のとおり。メインとなる資料は、(1)に記載したとおり資料2-1と資料5。資料2-1は事前照会にていただいた意見だが、4頁以降に柱立てごとに意見を仕分けして記載している。資料5は一部意見を反映させたシナリオで、目次と各シナリオ、末尾に注釈をつけている。(2)、(3)は参考資料。参考資料1は事務局で実施した高校生、大学生へのアンケート調査の結果。参考資料2は8月に開催した夢会議、未来フォーラムの開催結果で、グループ討議の発表や講評をとりまとめたもの。参考資料3は県民との意見交換でいただいた主な意見を記載したもので、現状課題、将来像や未来に向けた取組について各柱立てごとに記載しており、前回から追加したものを赤字で表記している。配布資料が多いが、参考にさせていただきたい。

なお、グループディスカッションは今回で終了し、次回は全体の案を示して検討いただく。

【委員長】

グループディスカッションに移る前に、山中委員の質問についてだが、資料4の「1 内容」の「(2) 阪神らしさを感じるシナリオとなっているか」に含まれる論点だと考えている。

シナリオの4つ柱立てについて、柱立て1は個をどれだけ豊にするものか、コ・クリエーションのもととなるものが書かれている。柱立て3はそれがどう繋がってどうまとまっているかを表記載している。柱立て2はその土台となる阪神間らしさ(環境、自然、文化、歴史)について、先人たちが積み上げてきたような環境、土台を示している。そして柱立て4では賑わいという形でどう発現しているか、阪神間らしくどう発現するかを記載しており、この4つの柱立てで大きな構成になっている。それぞれのシナリオの役割、特色を意識しながらここにコ・クリエーションという言葉がどう入ってくるのか、他にも阪神間らしさがどう入ってくるのか、歴史、文化であれば分かりやすいが、シナリオの中身に入ってくるか、タイトルに入るかなどグループディスカッションで議論いただきたい。初見の人がぱっと見て地域性、阪神間らしさがわかる表現を心がけてほしい。

【グループディスカッション結果の発表】

【委員】 1 自分らしいスタイルが実現できるまち（シナリオ 1～4）

柱立ての移動から発表する。シナリオ 4「いきいき健康 100 年人生」を柱立て 1 から柱立て 3 へ移動するかどうかについて、個人の個をベースにしながらか・クリエーションなまちをつくるという観点から考えた時に、地域包括ケアなどでみんながつながる優しいまちという論点に合っていることから、柱立て 3 への移動がふさわしいと議論した。

柱立て 3 シナリオ 13「あなたも私も多文化共生の仲間」について、外国人を救済する、支援するというのではなく、我々の同じ仲間として認め合うということが重要なため、柱立て 1 への移動がふさわしい。

シナリオ 3「世代を問わず地域をつくる阪神」について、女性・シニア・障害者の活躍という内容が抜けている。立脚点として、この「活躍」というのは生産性の向上なのかを議論した。2050 年に女性・シニア・障害者が何割働かないといけないという内容なのか、この方たちが活躍したいのに活躍できていない事に対する支援もしくは救済する内容とした方がふさわしいのか。

個人的なことだが、現在私は会社を経営しているが家に帰ると家事はなにもできず、妻に任せている。彼女は働くことよりも子供と触れ合いたいと言い、私は家族で笑い合うことで仕事を頑張ろうという気持ちになる。彼女が社会参加していないかということそうではないし、彼女は誰よりも社会参加をしていると自負している。働いた方がいいということを書くよりも、地域や家庭の中で、お互いがパートナーとして認め合うと補い合える関係になれるのではないか。

シナリオ 2「いつからでも誰でもできるスキルアップ」というタイトルだが、「スキルアップ」はあくまでも方法であるため、自分らしい働き方や企業、スタートアップに焦点を当ててなら「スキルアップ」ということを目的にしなくてもよい。

【委員】 2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち（シナリオ 5～8）

4 つのシナリオの関係性から整理した。シナリオ 5「未来まで続く花と緑と里山」、シナリオ 6「みんなが憩うなぎさ回廊」の 2 シナリオは阪神新地域ビジョンにおける山間部と海辺のそれぞれの環境特性を活かしたまちづくり、また、自然歴史文化を活かした地域の活性化という視点から作成されている。

シナリオ 7「再発見で魅了する「阪神間モダニズム」」、シナリオ 8「生涯の学びと次世代のつなぐ阪神文化」の 2 シナリオについても文化、歴史に関する内容から学びに視点を置いている。シナリオ 8 は、全体的に包括的な歴史文化についてのシナリオとして設定され、シナリオ 7 は「阪神間モダニズム」という比較的新しい概念、まちづくりの視点に注目して設定されている。これらは有効な学びのシナリオになっており、4 つのシナリオはバランスが良いという議論になった。

どのシナリオも、高い目標設定とその実現に向けての県民の取組というストーリーにまとめる必要があり、特に学びや人材育成は重要な視点であるという意見で一致した。

シナリオ 6「うまれる変化」の「海岸部の親水空間が人々の憩いの場、レクリエーション

の場として賑わう」という項目は、最終目標の「めざしたい姿」の見出しに記載されることがふさわしい。「めざしたい姿」の見出しに記載されている「阪神らしさのある人気観光スポットになる」という内容は、都市計画としては良いものの、地域ビジョンの観点からは最終ゴールとはいえ、「めざしたい姿」の中の項目の一つではないかという議論になった。

シナリオ7に関して、「めざしたい姿」の「阪神間モダニズムのイベントが話題になり人気を呼ぶ」、「阪神間モダニズムを継承しつつ次代へつなぐ活動が生まれる」の2つは今まさにやるべき取組であり、「将来への取組」に記載すべきではないかという指摘があった。「めざしたい姿」には「阪神間モダニズムの保存・継承が実現し、地域づくりとして活かされていく」というような高い目標を記載してはどうか。

シナリオ7、8については、人材を育成していくコーディネーターやファシリテーター、専門人材を育てていくことが新しい変化として起こらなければならない。

シナリオ8「うまれる変化」の「学校、大学が地域と一緒にワークショップを開催し、地域の人々が学ぶ機会が増える」は「将来への取組」として実施していく活動であると考え。「将来への取組」には、上記の人材育成の取り組みを記載し、全体的な変化を起こしていくというストーリーになると良い。

【委員】3みんながつながるやさしいまちについて（シナリオ9～13）

シナリオ9「地域で循環するエネルギー」の柱立ての移動について、地域の資源を保全するだけでなく利活用していくという観点があることから、柱立て2へ移動してもいいのではないかと。ただし、シナリオ9は自然資源利活用の話だけでなく、公共交通と移動に関する視点があり、この内容に関してはシナリオ10に組み込んではどうかという議論になった。

シナリオ10「子供の元気と世代を超えてつながるニュータウン」のシナリオタイトルについて、ニュータウンだけを取り出すのかという議論になった。ニュータウンに顕著に表われている社会的な問題は他の地域でも幅広く見られるものであることから、シナリオタイトルを変更する必要がある。シナリオ10のタイトル案としては、煮詰めることはできなかったものの、「地域の中でのつながり・交流」を創り出していくことと、多様な地域特性を持った阪神間の地域がつながるといふ地域間交流の視点も加える必要があることが確認された。加えて、地域が持続していく、次世代につなげていく必要であることも指摘された。地域内・地域間での移動や交流、地域の世代継承という3つの観点からシナリオタイトルや内容を構成し直した方が良いだろう。

シナリオ11「おせっかいがおせっかいでない家族のようなまち」について、意見照会でかなり多くの意見が提出されており、シナリオタイトルを根本的に変えることとなった。最終的には「自分にあつたつながりに参加できるまち」にし、多様なコミュニティーが県民によって見いだしたり、創り出せたりして、地域社会に参加しやすい環境が整えられているということを目指し、構成を変えるべきということとなった。「うまれる変化」や「めざしたい姿」には特定の事柄について個別具体的な表現で記載されており、それらは割愛してもよいということになった。

シナリオ12「みんなで作る安全な暮らし」について、中身が全て「防災」に関するも

のとなっている。「安全」となると防犯の話も組み込む必要が出てくるため、シナリオタイトルを「みんなで進める防災、減災」という表現に変えてはどうかという結論になった。内容については災害弱者支援について書かれているが、障害者・高齢者だけでなく外国人なども含めて多文化防災の観点を記載すべきという意見や、ハード対策・ソフト対策の足並みを合わせて相互がシンクロしながら進めていくべきではないかという意見があった。

シナリオ 13「あなたも私も多文化共生の仲間」について、1班と同じ意見となったが、外国人住民の個別支援や活躍を支え、それぞれの個や生き方を尊重し実現していくことをサポートするという観点であれば、柱立て1「自分らしいスタイルが実現できるまち」に移動すべきだという議論になった。柱立て3に入れるとすれば、外国人を支援対象として捉えるのではなく、外国人も地域や社会にとって豊かな「資源」であり、外国人が地域で活躍できる環境を整えることと、そうした活躍がどのような影響や変化を地域にもたらしうるのかを表現する必要があるのではないかとこの意見が共有された。柱立て3に入れるままであれば、シナリオタイトルを「多文化共生で人々がいきいきと暮らせるまち」に変更し、日本社会に大きな変化をもたらしていけるような地域を創っていくという内容に変えてはどうか。現在のままでは課題ベースの話になってしまっているので、それ以外の内容も組み込む必要がある。

【委員】4にぎわいのあるまち（シナリオ 14～18）

柱立て4の内容は柱立て1から3にある内容と重なっている点が多いが、柱立て4の特徴として、歴史的な蓄積や阪神間の資源を介してコ・クリエーションしていくというような視点を大きく打ち出していた。重なっている内容が多くとも、柱立て4は視点が違うところを見せていく必要があることを前提にして、整理した。

シナリオ 14「アートが人を呼びひろがる交流」について、どうしても「アートでイベントをして人を集める」という点が見えるが、そうではなく、身近なところでクリエイティブな活動が起こるといった点が見える方が、県民の視点になる。そのため、タイトルを「アートによるクリエイティブな環境づくり」に変更するという結論に至り、アートを多様でクリエイティブな取組ができるような素地を作り、環境を作っていくというシナリオの見せ方にしてはどうか。「将来への取組」について、「先駆的なアートイベントを開催できる土壌づくりが必要である」とあるが「先駆的」に限る話ではなく、全体的に伝統的な行事や文化が内容から抜け落ちている。阪神間には伝統的な行事は非常に多いため、今までのものも大切にしながらこれからの新しいアートやイベントも大切にするような内容にするため、「先駆的」という言葉はシナリオから外すという議論になった。「うまれる変化」として、身近なところで色んな取組が開催されているという話も取り入れてほしい。

シナリオ 15「訪れたい訪れやすい阪神地域ツーリズム」について、観光の内容が非常に抽象的に記載されているが、阪神間モダニズムの内容や固有名詞（甲子園、宝塚劇場など）を使い具体的に書くことで、伝わりやすくイメージしやすくなる。

シナリオ 16「多彩な農と美味しい食」について、内容が農業に寄りすぎているため、阪神間では歴史のある酒造なども有名なので、内容に含めるべき。

シナリオ 17「まちなかのにぎわいを創出する」について、内容は仕事・仕事環境・起業・ビジネスが主に記載されているが、「まちなかのにぎわい」と聞いたときに仕事だけをイメージすることはない。地域資源を活用するお祭りや、道路やオープンスペースを活用したまちなかのにぎわい創出もシナリオに含めるべき。

シナリオ 18「みんなで楽しむスポーツ」については、グループディスカッションで意見が割れたが、そもそもスポーツ分野をシナリオとして特出しすべきかどうかという議論になった。「スポーツをする」ということであれば柱立て 1 シナリオ 4「いきいき健康 100 年」につながる内容となり、甲子園球場や競馬場など「観戦」ということであればスポーツを「観光」するという観点から、シナリオ 15 に内容を組み込んでもいいのではないかという意見もあった。

【委員長】

シナリオの柱立て間の移動については、シナリオ 4 が柱立て 1 から柱立て 3 へ移動、シナリオ 9 が柱立て 3 から柱立て 2 へ移動、公共交通と移動の内容についてはシナリオ 10 へ組み込む。シナリオ 13 については柱立て 3 から柱立て 1 へ移動、ということによろしいか。抜けているものがあれば事務局で補足いただきたい。

人材育成の仕組みについても意見をいただいた。今回の検討委員会が始まるまでは、ビジョンの計画に大きな仕組みとして記載するものと考えていたが、阪神地域の実現志望として考えている中で、まずはシナリオの中に書ききるということを基本にしながら、もしも全体像として大きな仕組みの提案があれば、次回検討したい。

本日のグループディスカッションのポイントでもある「阪神間らしさ」については、主に柱立て 4 で一番出てくると思う。次回は、今回の検討内容を反映し、全体像を構成する。

一つ抜けている点があると思うが、県民の意見について非常に多くの参考資料が添付されているが、委員の全員が全ての資料を読み込んで反映させることは非常に難しい。今回の検討により委員の意見が全て揃うので、事務局がそれ以外の視点をシナリオや全体像に反映させ、次回の検討委員会でチェックをするという形にしたい。

【委員】

近藤委員の発表について、議事録だけを読まれる方が誤解されないように補足しておきたい。女性活躍を生産力向上に合わせて鋳型にはめる記載は避けるべきという点についてご報告の中で指摘された。この指摘はもっともなものである。大切なことはジェンダーに拘わらず、全ての人々が自分の持っている望みに基づいて幸せを実現していけるようにすることであることは共通認識だろう。同じ性であってもその望みが多様であるということを念頭に、多様な価値観が尊重されるシナリオになっているかを私たちは確認していかなければならない。このことに異論はないだろう。

ただし、本人が希望する／しないという望みや願いがつくられていく過程で、既にジェンダーの影響が生じていることを踏まえなければならない。私たちは男性優位の社会で生きているのであり、このジェンダー秩序とそれに基づく仕組みを変えていかなければならないと

いう認識の上で本日の議論もなされていることを共通のものとしたうえで今後の会議も進めていかねばならない。釈迦に説法になってしまったが、念のために発言させていただいた。

【委員長】

特にシナリオの後半部分の書き方として、2030年にはそもそもジェンダー問題が解消された状態で、2050年の「めざすべき姿」に向かえるというような書き分けができ、川中委員の意見が反映されてくるのだと感じた。

次回の検討委員会では、今回の意見、グループディスカッションの意見、全体での意見を含め再編・再構成を行ったうえで本体案を作成し、最後の大きな協議ということで進めたい。